

イセエビの雄雌の判別法

イセエビの雄と雌とは以下の4点で区別することができます。このうち、①はごく小さな稚エビのうちから雌雄で異なっていますので、この形質を用いることで小さなイセエビでも雌雄の判別は可能です。②～④は成長に伴って違いが出てくるもので(2次性徴による)、小さなイセエビではこれらの形質を用いて雌雄を判別することはできません。

① 生殖口(雌なら卵が、雄なら精子が体内から出てくる場所)の位置

雌の生殖口は前から3番目の歩脚の付け根にあるのに対して(写真1右、写真2)、雄では5本番目の歩脚の付け根にあります(写真1左)。



写真1 イセエビの生殖口の位置(左:雄、右:雌)



写真2 雌の生殖口(拡大)

② 腹部裏側にある腹肢の大きさ

雌は産卵した卵を腹肢に付けて保護することから大きな腹肢を持っています。雄は抱卵しませんので腹肢は小さいです(写真3)。



写真3 腹肢の大きさ(左:雄、右:雌)

③ 5番目の歩脚の先端の形状

5番目の歩脚の先端は、雄では他の歩脚と同様に長い棘状になっていますが、雌では短く、また先端近くの棘が発達して、指状になっています（写真4）。歩脚の先端の形状が雌雄で異なっているのは、雌は腹肢で抱卵するのに対して、雄は抱卵しないためであり、雌は抱卵している卵を5番目の脚で絶えず掃除するため、きれいに掃除ができる形状になっています。



写真4 5番目の歩脚の先端の形状の違い（左：雄、右：雌）

④ 2番目の歩脚の長さ

雄の2番目の歩脚は他の歩脚より長くなりますが、雌ではそのようなことはなく、他の歩脚と同じような長さです（写真5）。雄のこの特徴はイセエビの交接に関係し、交接の時には雄が歩脚で雌を抱え込む形となることから、抱え込みやすいように2番目の歩脚が長くなっています。



写真5 2番目の歩脚の長さの違い（左：雄、右：雌）

これらの雌雄の違いの他に、雄の方が雌より成長が速く、また大きくなるということがあり、漁獲されるイセエビの中で500gを越えるような大きなものはたいてい雄ということもあります。